

# 平成 30 年度

## 草津市文化振興審議会 施策評価部会 会議録

▼日時：

平成 30 年 10 月 31 日（水） 15：00-17：00

▼場所：

草津市役所 6 階

▼出席委員：

辻委員、五十川委員、梅山委員、中畷委員、中村委員、田中委員

▼欠席委員：

伊庭委員

▼事務局：

竹村部長、堀田副部長、相井課長、山本課長補佐、松岡主査、永井主任

▼傍聴者：

2 名

### 1. 開会

---

【部長】

文化の秋ということで、10 月 11 月は、文化に関連するイベントが目白押しでございます。10 月 6 日（土）から 14 日（日）を会期とした草津市美術展覧会は、秋の恒例行事となっており、今年で 56 回目を迎え、広く県内から 223 点もの出品をいただき、1,391 名の方に作品を鑑賞いただきました。

また、10 月 20 日（土）には、初めての試みである回遊式まちなか美術館を開催いたしました。これは、草津の秋のアートイベントとして定着しているアートフェスタくさつと、滋賀県、（公財）びわ湖芸術文化財団主催の「美の糸ローアートにどぼん！」が連携し、宿場町としての歴史と文化的資産が色濃く残るまちなかにおいて、様々な交流型のアートイベントを開催することで、街をさながら美術館として見立てて、まちなかを巡っていただく企画したものでございます。約 50 ものアートワークショップや、県内外で活躍するアーティストとの交流を楽しむ「クリエイターズマーケット」の他、夜には星空とビルの夜景を背景とした「星降る映画館」を開催し、延べ約 1 万人の方にアートに親しんでいただくことが出来ました。

本日は、ただいま御紹介させていただいた草津市美術展覧会、アートフェスタくさつの

他、指定管理者で実施いただいている実行委員会形式等による事業を評価の対象としてい  
るところでございまして、公正・公平な運営が行われているか、協働の効果は発揮できて  
いるか、という観点で検証を行っていただきたいと思っております。皆様方には、何卒活  
発な御議論をお願いしまして、私の挨拶とかえさせていただきます。

## 2. 施策評価部会について

---

### 【事務局】

<資料に基づき説明>

### 【A委員】

報告事項等に関し、質問はないか。  
当部会の開催は一回か。

### 【事務局】

その通りである。

## 3. 実行委員会形式等による事業の点検

---

(1) 市が実施する実行委員会等による事業

- ・アートフェスタくさつ
- ・草津市美術展覧会

### 【事務局】

<資料に基づき説明>

### 【A委員】

各事業について、意見や感想はないか。  
実績は昨年度のものか。

### 【事務局】

施策評価シートは平成 29 年度の実績で記載している。グラフについては、本年度の実績  
が判明しているものは反映している。

### 【A委員】

まずはアートフェスタくさつについて、御意見があればお伺いしたい。

**【B委員】**

年々、事業規模が拡大する中で参加者が増えているのは喜ばしいが、草津市 21 世紀文化芸術推進協議会は、加盟している協会、連盟ごとに状況が異なる。個人で入会している協会、連盟もあるので、一律に参加を求められると負担感がある。事業が拡大する中では、草津市 21 世紀文化芸術推進協議会以外の人材活用も必要になるだろう。

**【A委員】**

今年度の状況はいかがか。

**【事務局】**

例えば、クリエイターズマーケットについては、コーディネーターを活用しており、外部人材の登用も進めている。イベントに関わりたいという方も増えているので、どのように活用するかは今後検討する必要がある

**【C委員】**

参加者数の内訳を教えてください。

**【事務局】**

滋賀県、(公財)びわ湖芸術文化財団主催の「美の糸ローアートにどぼん！2018」が延べ約 3,000 名、「アートフェスタくさつ 2018」は 3 つの事業で構成されており、「わくわく体験広場」が延べ約 3,000 名、「星降る映画館」が延べ約 2,350 名、「クリエイターズマーケット」が延べ約 2,000 名で、合計で 1 万人程度の来場があったと思われる。

**【C委員】**

星降る映画館は昨年度から同時開催しているのか。

**【事務局】**

昨年度から開催しているが、同日に開催しているのは本年度からである。

**【C委員】**

星降る映画館の主催はどこか。

**【事務局】**

教育委員会が草津まちづくり株式会社に委託しており、両者の主催で開催している。

**【A委員】**

様々な事業により回遊式まちなか美術館が構成されている。

**【D委員】**

当日は、どこから来られているのか、というくらい賑わっていた。

**【事務局】**

市民の方にも多く御来場いただいたが、来場者の方のお話を聞いていると、半数近くは市外の方であった。

星降る映画館が、昨年度単独で開催した際は、約 1,200 名の来場であったが、今年度、アートフェスタくさつとして開催したことにより、来場者数は倍近くまで増加した。

**【E委員】**

星降る映画館は伺えなかったが、日中は、曇っていたにもかかわらず、昨年よりも多くの方で賑わっていた。

**【A委員】**

若い方の来場が多いのか。

**【B委員】**

対象者を若年者に絞っており、ワークショップは、園児から小学校低学年まで楽しんでいただける内容としており、あわせて保護者の方にも楽しんでいただいていた。

**【A委員】**

県の事業の穴埋めをどうするかが課題だが、違う形で企画を検討いただければと思う。続いて、草津市美術展覧会について検討する。

**【B委員】**

市でも努力いただいているが、出品者の減少、高齢化は難しい問題。どこの展覧会でも 6 部門が通常となっている中で、急ぐ必要はないが、新しい要素も可能であれば追加できればと思う。

**【D委員】**

市民が中心に出展されていると思っていたが、市展賞受賞者のうち半数が市外の方であった。出品数を多くするのであれば、市民に限らない方がいいが、市民は減免するなど市民が出品しやすい工夫をすべきではないか。課題として、展覧会の方向性が書かれているが、税金を使う以上、広く機会を設けることにウェイトを置いた方がいいのではないか。

**【A委員】**

京展の場合は、全国から出品が集まり、出品料も一律。草津市の出品料 600 円というのは妥当な金額か。

**【事務局】**

県展であれば出品料は 1,200 円であり、近隣市町とも比較しながら出品料を決定している。

**【B委員】**

過去、高校生は無料にしたらどうかという提案が実行委員会からなされたこともあった。

**【A委員】**

高校生の出品はあるのか。

**【B委員】**

ある。

**【C委員】**

無料にしたら作品の質は担保できるのか。

**【B委員】**

それは分からないが、出品者数と展示数が一致しているので落選はない。スペースにもよるが、出品いただければ可能な限り展示できる展覧会とはなっている。

**【A委員】**

批評会の際も、非常に皆さん熱心に聞かれていた。出品数も非常に多い。若い方も出品いただくということであれば、同時期に子どもの作品も展示してはいかがか。できるだけ特化しないで裾野を広げるというのも一つのやり方だ。

部門を増やすという意見もあったが、大学でもイラストは非常に人気がある。若い方の関心、裾野を広げることにつながるのでは。イラストという言葉が難しければデザインでも良い。他市とも差別化が図れ、特色となるのではないか。

**【事務局】**

市美術展覧会の後に、小学校、幼稚園、こども園、小学校、中学校等による青少年美術展覧会を開催している。会場の規模もあり、併設は難しい。同展覧会はアートフェスタくさつと同日に開催しており、展覧会に来場いただいた後、ワークショップを楽しむという流れも出来ている。

**【A委員】**

NHKでホスピタルアートの特集が放送されていた。個人の展覧会というだけでなく、アートと社会の関わりも提示できれば、出品者の方にも意識づけになるし、新しい展開にもつながるのではないか。

ヨーロッパのある都市では病院自体が美術館になっており、医療費の削減効果が認められている。コーディネーターの活用や、商業施設との連携が進めば、新しい展開につながるのではないか。

(2) 指定管理者が実施する実行委員会等による事業

- ・草津市民音楽祭

- ・クレアプラスフェスティバル
- ・草津市合唱祭
- ・草津市民文化祭

**【事務局】**

<資料に基づき説明>

**【A委員】**

市民文化祭については舞台発表が中心か。

**【事務局】**

舞台発表も行っているが、300㎡規模の展示ホールにおいて、2日間に渡って展示も行っている。

**【E委員】**

どこの市町村でも市民音楽祭が開催されているが、新しい団体が入りづらいというのは、どこの市町村でも課題。草津市は新しい団体が入られているのか。

**【事務局】**

指定管理者が実施することによって広報力が向上し、出演団体が増加している。団体に絞って募集をしているが、ピアノの発表会代わりに使われるケースもあり、別に事業を行う方が良いか検討している。

**【A委員】**

音楽祭としての質の問題はいかがか。

**【事務局】**

チャレンジしようと思っている団体もあるので、審査が難しいと感じている。

**【A委員】**

参加団体の年齢層は。

**【事務局】**

対象は絞っていないが、幼稚園児から高齢者まで様々である。合同合奏をした際は、来場者数が増加したが、辞めた際に一時的に来場者数が減ったということもあった。

**【A委員】**

他の事業と参加団体が重なっている点はどうか。

**【事務局】**

合唱やブラスバンドはどうしても重なってしまうが、各団体で演目を変えるなど工夫はされており、一年間で2回出演することを目標にしているということも聞いている。

**【C委員】**

市民音楽祭に限らず、出演団体の代表者により実行委員会を構成されているが、出演と企画・運営は別物である。一部重なっていてもいいが、全団体が実行委員会に参加するのは違和感がある。

**【A委員】**

そこがポイントかと思う。県が実施しているアートマネジメント講座に参加している方が、企画に加わる等の仕組みがあると良い。

大学でも文化政策や地域デザイン等の授業もあり、学生が関わる方法もあるので、課題として捉えてもらえれば。

続いて、クレアブラスフェスティバルに移る。青少年アンサンブルコンサートの位置づけは。両方出ている団体もあるのか。

**【事務局】**

クレアホールが県から移管される前、アミカホール単独で指定管理を受けていた時に、青少年アンサンブルコンサートが始まったが、県のアンサンブルコンサートの前に練習をしようということで始まった。この時期にすることに意味がある。ロマン楽器も毎年、アンサンブルコンサートをされていて、当方の日程を気にされている。

ブラスフェスティバルについては、指揮者、指導者、学校の先生方が中心となって会議を行い、そのあとに公募も含めた全体会議を行っている。

**【A委員】**

青少年アンサンブルコンサートの主催はアミカホールか。

**【事務局】**

会場がアミカホールとなっているが、主催は（公財）コミュニティ事業団である。

**【A委員】**

続いて合唱祭に移る。会場はアミカホールか。

**【事務局】**

昨年度まではアミカホールで開催していたが、今年度からクレアホールで開催する。

**【D委員】**

来場者が多くなるとクレアホールで開催するのか。

**【事務局】**

必ずしもそういう訳でもないが、合唱祭はそういう事情もある。草津市合唱連盟とも検証し、クレアホールで開催することになった。

**【D委員】**

クレアホールで開催されると行きづらくなる人もいる。来場者の人数によって会場を設定するのか。

**【事務局】**

それだけではないが、音響や装置など会場の特性も考慮しながら開催場所は検討している。南草津を拠点に活動している団体は、クレアホールの方が使いやすいという声もある。両方で事業を開催することで、これまでなかった交流が生まれているとも感じている。

**【A委員】**

チラシを見ていると、京都の合唱団が参加することになっている。

**【事務局】**

それはゲストである。ゲストを呼ぶことで、より多くの方に聞いていただくことにもつながるし、地元合唱団の研鑽にもなる。

クレアプラスフェスティバルでも指揮者を招待することで、演奏のアドバイスをいただいている。

**【A委員】**

続いて草津市民文化祭に移る。

**【C委員】**

展示の部は公募がないということだが、募集しているのに応募がないということか。

**【事務局】**

展示の部は公募していない。

**【C委員】**

税金が投入されているのであれば、応募があるかは別として機会は設けなければならない。

**【A委員】**

クレアホールだけで開催しているのか。

**【事務局】**

その通り。

**【A委員】**

文化祭というのであれば、広げる方法が考えられれば良い。先ほどあったアートフェスタくさつのように、連携して開催できれば。

**【C委員】**

今日出てきた中では一番チラシが地味だ。

**【F委員】**

伝統的というか、味があって良いかと思う。

**【D委員】**

最初からプログラムに組み込まれているので、飛び入りという用語が生まれるのではないか。

**【事務局】**

平成 29 年度においては、時間が無い中で苦肉の表現となった。

**【A委員】**

全体的には伝統芸能中心か。

**【事務局】**

様々なジャンルがあり、ダンスや邦舞など多様な団体が出演されている。

**【A委員】**

ダンス部門などを設定すると、若い方が集まる可能性もある。お茶券が先着 100 名となっているが、いつもそのくらいの来場者はあるのか。

**【事務局】**

それは例年完売している。

**【F委員】**

伝統的なものと、子どもがたくさん集まるような新しいものがあるが、古いから辞めるというのはいかがか。伝統的なものの良いところは何かを考え、活かせばよい。

**【A委員】**

発表が中心となっているので、それまでの過程に何かあれば良いのでは。例えば、伝統芸能の教室があり、その次の段階としてこのような発表会を実施できれば。

全体を通しての意見や感想をお願いしたい。

#### 【E委員】

中学生の吹奏楽部が発表する場が少ないと言われている。3年前から、草津だけでなく栗東や守山の生徒も参加し、帰帆島の芝生公園や、エイスクエアの広場で発表の場所が設けられている。

#### 【D委員】

今日の点検項目で、公正・公平という点について議論できたが、協働による効果の点検についてはどうか。文化については本来的に、市が音頭を取ってやるより、市民が積極的にやって、それをお金や場所の面で市が支えるべきと思っている。参加者の固定化や高齢化の問題はあるが、それをだめだと決めつけず、発表の機会を作っていくことが一番大切。具体的に時期を決めて発表の機会を設け、それを目指すことで、草津の文化力の向上にも繋がると思う。活性化にはマイナスかもしれないが、あまり深刻に考えすぎずに。

#### 【C委員】

D委員と逆になるが、もう少しオープンに、積極的にした方が良いと思う。毎年同じことをするのはなくて、今年はどうするかをもう少し出していかないと。

#### 【B委員】

団体が色々な形で努力はしているが、取り組みを知らない人が多い。広報紙でも紙面の関係でなかなか載せてもらえない。文化の情報をキャッチして発信する役割を求めていくところが必要。

#### 【F委員】

ほとんどが屋内のイベントだが、アートフェスタは唯一屋外。天候など主催者は大変だったと思う。これはどのように決めていたのか。

#### 【事務局】

基本的には小雨決行としていたが、前日にも様子をよく見て必要であれば中止も考えていた。中止時の費用を抑えることなども検討し、雨天の場合は規模縮小など、可変的な考え方も取り入れてきた。

#### 【A委員】

議論が十分でなかったところもあるが、公正・公平な事業の実施ということがベースになると思う。それを詰めていきながら、私と事務局でまとめていきたい。

## 7. 閉会

---